

授業科目 医療福祉コミュニケーション論

【担当教員名】 高橋 直樹		対象学年	2	対象学科	情報
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	○	◎	◎	◎	
【概要・一般目標：GI0】 医療福祉における問題の一つに、医療福祉に携わる側と対象者の側とのコミュニケーション不足が指摘されている。医療福祉分野に関わる者は全て、人と人との間の望ましい関係を築き、円滑なコミュニケーションをおこなうことが重要である。では、コミュニケーションというとき、具体的に、何をどうすれば良いのか。この講義を通じて、受講生と共に考えていきたいと思う。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. ケア・コミュニケーションの基本的な心構えについて理解し、説明できる。 2. 被援助者との関係を築くコミュニケーションについて理解し、説明できる。 3. 被援助者の理解と情報の交換、行動化の支援について理解し、説明できる。 4. チームワークとコミュニケーションについて理解し、説明できる。 5. その人らしさを大切にコミュニケーションについて理解し、説明できる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	医療や介護におけるコミュニケーションを考える視点			1	講義・演習
2	医療や介護におけるコミュニケーションの役割			1	講義・演習
3	好感・信頼感を高めるコミュニケーション（1）			2	講義・演習
4	好感・信頼感を高めるコミュニケーション（2）			2	講義・演習
5	敬意を伝えるコミュニケーション			2	講義・演習
6	相手を受容し、共感する			3	講義・演習
7	苦情やクレームに対応する			3	講義・演習
8	わかりやすく説明し、同意を確認する			3	講義・演習
9	主体的な選択や行動を引き出す			3	講義・演習
10	チームの一員として仕事を進める			4	講義・演習
11	建設的でさわやかに対話する			4	講義・演習
12	視聴覚言語障害を持つ被援助者とのコミュニケーション			5	講義・演習
13	認知症の被援助者とのコミュニケーション			5	講義・演習
14	人生の最期を迎える被援助者とのコミュニケーション			5	講義・演習
15	復習と総まとめ			1, 2, 3, 4, 5	講義・演習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		ケア・コミュニケーション	松田美幸	ウイネット	2007・2,100円
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 試験によって評価をおこなうが、保健医療福祉の現場において、 (1) 必要となる実践的な知識・技術を修得できているかどうか (2) 対象者の尊厳を重視しながら適切な行動がとれるかどうか (3) 対象者や関係する職種と良好なコミュニケーションおよび連携が図れるかどうかの3点について、総合的に評価する。 ただし、出席状況や受講態度が悪い者は大幅な減点対象となる。			【履修上の留意点】 受講生の座席を指定する。 受講生の積極的な授業参加が求められる（プレゼンテーションやディスカッションなど）。 教科書は毎回持参すること。		